

ようこそ！！旧中島家住宅へ

中島家住宅は「田の字型四間取り」と呼ばれている間取りの居室を持つ民家です。漢字の「田」の字のかたちにダイドコ・ナンド・デイ・オクノマの4部屋が配されているため、「田の字型」といいます。同住宅は、栗東市大字霊仙寺に江戸時代末期～明治初期に建築されたとみられる民家ですが、展示では昭和初期のしつらえを再現しています。

①ダイドコ…ごはんを食べる部屋（食堂）

ダイドコは家族が食事をする部屋で、床は板敷きになっており、大きなミズヤタンス（水屋箆笥）が置かれています。大正末期頃から「ちゃぶ台」が普及しはじめますが、それ以前は、家族のひとりひとりにハコゼンと呼ばれる膳が用意されていて、床に置いたハコゼンに食器を並べてご飯を食べていました。

②ナンド…寝起きをする部屋（寝室）

ナンドはふとんを敷いて寝たり、着物を着替えたり、髪の毛を結ったりする、家のなかでもっともプライベートな部屋です。ナンドには主に若夫婦が寝起きし、女の人には子供を寝かしつけたり、針仕事をしたりもしました。

③デイ…お客さんを通す部屋（客間）

デイは日常のお客さんを迎える部屋でした。また当主が火鉢にあたったり、煙草を吸ったりしてくつろいだりする部屋でもありました。デイの北東隅（茶箆笥の上）には神棚が祭られています。

④オクノマ…あらたまった部屋（座敷・仏間）

オクノマには先祖代々の位牌を祭った仏壇が置かれ、家のなかでもっとも改まった部屋です。昭和初期の結婚式やお葬式は自宅でおこなわれるのが普通で、冠婚葬祭や法事・神事の際の席にオクノマが使われました。

⑤ニワ（土間）

土間には土製のカマド（ヘツツイ）がしつらえてあり、女の人が食事の煮炊きをしました。中島家のカマドは湾曲した形で、5ヶ所の焚き口を持っており、ここに薪を入れて火を起こしました。カマドと並んでウマヤがあります。ウマヤには農業に使う牛を飼っていました。家畜である牛を家のなかに飼っているのはなぜなのでしょう。これは田を耕してくれる牛が家族にとってどれほど大切だったのかを示すものです。いつどんな時も家族が牛の様子を見守ることができる場所に牛の小屋を作ったのです。牛小屋の柱に貼られた牛の御札もそんな牛への思いを物語っています。また、ニワでは藁打ちや畑作物の選別など簡単な労働もおこなわれました。ニワは玄関・作業場・炊事場・物置をかねた空間でした。

中島家にはたくさんのおかしの道具が置かれています。どこにどんな道具が置かれているのでしょうか？中島家に置かれている昔の道具のリスト（裏面）を見ながら、それぞれの道具がどこにあるのか探してみてくださいね！